

令和元年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時 令和 元年 6月10日（水）

午後1時55分～4時10分

場 所 柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

塚口義信（会長）、木下百合子（副会長）、綿貫友子、
橋本早知子、水元誠致、岡野有幸、中野 武

事務局

新子寿一（教育長）、福島 潔（教育部長）、安村俊史（文化財
課長兼歴史資料館館長）、石田成年（文化財課参事）、山根航（文
化財課主査）

1. 開会（13 時 55 分）

進行・山根

2. 新子教育長あいさつ

3. 委員紹介

4. 事務局紹介

5. 議事

①平成 30 年度事業報告

（1）歴史資料館関係 安村報告

（2）横穴管理運営関係 石田報告

〔資料参照〕

【質疑】

○入館者の増加について

委員：2 万人の入館者は喜ばしいことである。小学生が減少している中、来館小学生が増加している要因をどのように考えているか。

事務局：学校で博物館等を積極的に活用するようという指導があること、一度来館した学校が続けて来館してくれること、来館した先生が他の先生に紹介してくれることがあるようだ。小学校に限らず、大和川の付け替えならば柏原市の資料館に、ということが定着してきているようだ。

○大和川付け替え学習など教員向けの取り組みについて

委員：教員向けに授業モデルプランの提示、教員向けの研修などを実施してはどうか。

事務局：モデルプラン等は作っていない。柏原市新任教員の研修や、社会科教員向けの研修などは行っているが、当館主催の研修等は実施していない。今年 8 月の大和川講座で、教員向けの大和川学習の研修講座の実施を考えている。

委員：柏原市の教員は「わたしたちの柏原市」などで学習していると思うが、他市から移ってきた教員などは、柏原市についてよく知らない教員もいる。教員が学ぶ機会もぜひ考えてもらいたい。大阪教育大学（以下、大教）の学生に対する講座などを積極的に取り組んではどうか。

委員：教員養成課程の学生との関わりについては、ぜひ積極的に取り組んでももらいたい。各小学校で、地域ごとに大和川付け替えとの関わりが違っている、また、現在の小学校での大和川付け替えに対する授業内容が十分ではないという指摘もある。このような問題について、何か取り組みはできないか。

事務局：昨年度、大教の教員養成課程の日本史の授業を実施している。また、今年度は大教の留学生の授業を行った。このように、大教とは今後も交流を深めていきたいと考えている。大和川見学の来館小学校には、各学校の立地に応じて解説の内容を変えるなど工夫している。教員向けの研修でも、地域によって大和川付け替えとの関わりが変わってくるので、そのあたりを意識した話をしたいと思っている。秋季企画展では、「大和川つけかえと中甚兵衛」を予定している。中甚兵衛をヒーローと考えずに大和川付け替えについて考えてみたい。それを小学校の大和川付け替え学習に活かしてもらえよう考えてみたい。

○展示・広報について

委員：高校での地理教育の必修化に関連して、GIS などを利用した学習、それに伴う展示を考えて欲しい。二点目、来年『日本書紀』成立 1,300 年に伴う展示は考えているのか。三点目として市広報紙が充実し、資料館もコラムが復活するなど充実したようなので、さらに充実させてほしい。当館はホームページが充実しているが、多くの市民に知ってもらうために、広報紙も充実させてほしい。

事務局：地理的な展示について、当館は地理的な観点をかなり意識的に取り入れており、これからも同様に考えていきたい。ただ、GIS などとの関わりについては課題としたい。『日本書紀』の企画展は来年夏に実施する予定である。広報紙は6月号から変更している。資料館のページは、これまでスペースの関係などでコラムなどの掲載がむずかしかったが、今後継続して掲載できることになった。しかし、これ以上の増ページは難しいと考える。

委員：広報紙でホームページのPR をしてはどうか。

事務局：それは考えていきたい。

委員：もう少し、近現代の紹介も考えてほしい。

事務局：8月号のコラムは「戦争とぶどう」というテーマを考えている。広報紙などでも近現代の紹介に努めたい。

②令和元年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 安村報告

(2) 横穴管理運営関係 石田報告

〔資料参照〕

【質疑】

○市民歴史クラブの活動について

委員：市民歴史クラブの展示はすばらしい。現在何名いるのか。

委員：15 名である。

委員：市民と資料館との橋渡しとして位置づけることができる。一般の方にとって、ジオラマや模型は非常にわかりやすいと思う。

委員：この活動をマスコミで取り上げてもらうようなことはできないだろうか。

事務局：これまでも取材はあったが、もう少し広報していきたいと考える。

委員：年齢層は何歳くらいか。

委員：平均 65 歳くらいである。

委員：学生など若い人にも参加を呼びかけてはどうか。

委員：学生などが参加することによって、資料館の活動への協力や資料館の活性化につながるのではないか。

委員：生涯学習という観点からも幅広い層の取り込みを考えてもらいたい。

③講演会等の有料化について

〔資料参照〕

【質疑】

委員：基本的に有料化するという考えに賛成である。200 円ではなく、300 円にしてはどうか。市職員の場合も徴収するべきだ。

委員：文化財講座や古文書講座はすでに受講料を徴収しているが、これらとの関係はどう考えているのか。

事務局：新たに講師謝礼等に必要な経費の一部について負担してもらおうという考えだ。収入は市の雑入として計上することになる。受益者負担という考えかたでは、職員の場合も徴収する必要があるだろう。

委員：受講者からすれば、外部講師も職員も同じではないか。同じように徴収すればいいだろう。

委員：資料代と考えればいいのか。ただし、その場合、資料の残部を無料で配付することはできない。

事務局：その点からも、資料代ではなく、受講料にすることを考えている。

委員：残部はコピー代として実費をいただければいいのか。

事務局：そのような体制ができていない。残部を有効に活用するためにも、無料配付でいいと考えている。残部がなくなれば、配付終了ということになる。

委員：文化財講座や古文書講座は有料なのだから、職員の場合も有料とするべきだ。

委員：体験教室は材料代として 100 円程度となっているが、実費とするべきではないか。

事務局：体験教室は実費とする。職員の場合も有料とすることは問題ないと思う。その方向で考え直したい。

委員：市民が割引になるような方法は考えられないか。

事務局：市民かどうかの確認は手続きが煩雑になるので、一律でいきたいと考えている。たとえば、文化財講座は市民のみの参加としている。このように何らかの方法で、市民優先ということは考えていきたい。

委員：広報紙に割引券をつける等、工夫できないか。

事務局：広報紙は難しいかもしれないが、今後何らかの方法は考えていきたい。

委員：どこから指摘されても矛盾がないように考えて、徴収するようにしてもらいたい。

事務局：金額設定の根拠等は明確にしていく。

事務局：市職員の場合も同じように徴収することを前提として考えたい。また、徴収や金額設定の根拠は明確にする。本日の審議結果をもとに、来年度からの講演会等の有料化を図っていきたい。

④その他

○三郷町とともに、龍田古道を日本遺産に申請する準備をすすめている。今年度は認定されなかったが、来年度の認定をめざしている。

○長瀬川・玉串川の「大和川分水築留掛かり」が昨年8月に世界かんがい施設遺産に認定された。

○近鉄道明寺線が昨年で開業120周年となり、土木学会の選奨土木遺産に認定された。

6. 閉会

事務局：会議録はホームページ等で公表することになっているので、了解いただきたい。

(終了16時10分)